



<教育目標>

英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

## 中野中学校だより

平成 28 年 7 月 1 日発行

No. 5 校長 矢口 仁

支え合う社会の実現を ー相互理解の促進ー

校長 矢口 仁

### 七夕の歌書く人によりそひぬ 高浜 虚子

七月に入りました。来週が「七夕」です。一年に一度だけ会う牽牛星（彦星）と織女星（織姫）を祭る行事です。

日本では古来、竹の枝に詩歌等を書いた短冊をつるして軒下に立て、書道の上達を願いました。今では様々な願い

を込めて、短冊を書きます。本校の図書館にも、願いが書かれた短冊が飾られます。



さて、先日の朝礼で「オリンピック・パラリンピック教育」について話をしました。これから 2020 年に向けて、中学生がこれから身に付けてほしい五つの資質についてです。その中の一つに「障がい者理解の促進」があります。障がいの有無にかかわらず、全ての人々が、同じ社会に生きる人間としてお互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていく力を身に付けることが求められています。

有川浩さんの「レインツリーの国」という作品を以前読みました。伸行とひとみが「忘れられない一冊の本」をきっかけにメールの交換を始め、趣味が共通のため気持ちに通じあっていきます。伸行はひとみに会いたいと強く思うのですが、彼女はかたくなに拒否します。結局、二人は会いました。伸行には、ひとみの行動がわがままで自分勝手に見え、けんか別れになりました。実は……ひとみは、聴覚障害者でした。

ひとみはそのことを言い出せず、健聴者とは付き合えないと思っていました。しかし、何度も何度もけんかや会話を重ね、信頼関係ができ始め、やがて、恋愛感情が生まれます。二人はお互いのことを大切に思い、交際を続けていきます。

「耳を悪くしてからというもの、人並みの幸せは諦めて生きていくのだと思っていた。もし、私が幸せになっていいのなら、どうかあの人と少しでも長く一緒にいられますように。あの人を私が幸せにしてくれたように、私もあの人を幸せにできますように。」……ひとみは、新しい人生へ立ち向かっていきます。

相互理解を深めるためには、相手の立場になって考え、行動することが大切です。私は二年前、ブラインド・サッカーの監督・選手の話聞いて以来、白い杖を使っている人を街中で見かけると、近寄って声をかけられるようになりました。

障害者らが特別な存在として生きる社会ではなく、彼らの日常が「当たり前」と思える社会ができればいいと思います。2020 年に向けて、今以上に多様性を認め合い、誰もが自然に交流し、支え合う社会が実現できたら素晴らしいことと思います。